若楠国体

諸岡選手の応援団

来年令和６年（2024）は、「SAGA2024国スポ・全障スポ」の年です。先日、佐賀アリーナがオープンし、本年５月から県内各地で続々とリハーサル大会が開催されるなど、国スポの気運が徐々に高まっているのを感じられます。そこで今回の館報では、昭和51年（1976）に開催された、第31回国民体育大会（通称：若楠国体）について紹介したいと思います。

そもそも国民体育大会とは、国民の健康促進・体力の向上を図るとともに、地方文化やスポーツの振興・発展に寄与するため、昭和21年（1946）に始まりました。平成30年（2018）のスポーツ基本法の一部改正により、来年の佐賀大会から「国民スポーツ大会」と名称が変更になっています。

さて、前回行われた若楠国体については、今でも記憶に残っている方が多いのではないでしょうか。「さわやかに・すこやかに・おおらかに」のスローガンのもと、夏季大会を９月19日から４日間、秋季大会が10月24日から６日間行われました。

当時旧有田町では、昭和48年（1973）の誘致決定直後から国体準備室（のちに国体担当課、国体本部に改称）や国体実行委員会を設置し、事業に当たりました。旧有田町は相撲とウエイトリフティングの会場となったため、当時あまりなじみのなかったウエイトリフティングのルールについて、『広報ありた』で詳しく解説するなど、町民に対して競技の浸透と関心を高めてもらうよう図りました。期間中、選手団は「民泊」、つまり町民宅にホームステイすることとなり、町民側のもてなしとして選手向けの食事講習会が実施されるなど、歓迎ムードも高まりました。ほかにも、国体にむけて県民が行う活動として「あいさつ運動」「花いっぱい運動」「時間を大切にする運動」などが展開されましたが、町民たちがこれらの運動に活発に参加している様子が、当時の『広報ありた』や『広報にしありた』で詳しく紹介されています。

競技は、相撲は新装された白磁ヶ丘相撲場、ウエイトリフティングは、完成したばかりの文化体育館と、有田工業高等学校の体育館を会場に行われました。旧西有田町では、国体競技は行われなかったものの、役場職員の諸岡選手がウエイトリフティングに出場しました。

さて、この大会シンボルとなる炬火（きょか）の採火は、県内８か所の、歴史的由緒のある地もしくは県民に親しまれている地で行われ、それぞれ「村のさかえの火」「山のさかえの火」「海のさかえの火」「町のさかえの火」と名付けられました。実はその１か所が有田町の陶山神社でした。昭和51年10月15日午前11時、太陽光による「町のさかえの火」の採火が行われました。この日はあいにくの天気で採火に手間取り、いっそ窯の火を使っては…と気を揉む一幕もあったようです。このようにして各地で採火された火が「若楠の火」として一つに集火され、10月18日県庁で行われた式典ののちにリレー隊が出発しました。県内を一周し、24日の開会式にて会場である佐賀県総合運動場の炬火台に点火しています。

来年の「SAGA2024国スポ・全障スポ」も、若楠国体と同じように、県民一丸となった、県民の記憶に残る素晴らしい大会となることでしょう。　（永井）

旧有田町役場前での炬火リレーの様子
（岩谷川内）

季刊 皿山 No.138 夏 2023
有田町歴史民俗資料館・館報

令和５年度 全国重要無形文化財保持団体協議会佐賀・有田大会 直前準備情報編

これまで本館報では、No.125号と129号～137号で、重要無形文化財とはどのような文化財で、全国16の加盟保持団体はそれぞれどのような団体なのか、アンケート方式でご紹介してきました。そこで、いよいよ11月に迫った大会に向け、今回と次回の２回に分け、「直前準備情報編」として、開催日程やこれまでの準備状況、今後の予定などについてお伝えしてみたいと思います。

○佐賀・有田大会及び秀作展について

名称：第30回全国重要無形文化財保持団体協議会 佐賀・有田大会
日程：令和５年11月９日㈭～ 10日㈮
場所：歴史と文化の森公園　焱の博記念堂［有田町］

名称：第29回重要無形文化財保持団体秀作展 －日本の伝統美と技の世界－
日程：令和５年11月９日㈭～ 26日㈰
※月曜休館
場所：佐賀大学美術館［佐賀市］

昨年の岐阜・美濃大会

○特別企画

今大会は、記念大会として位置付けられていることから、新しい試みとして、国立大学法人佐賀大学と連携し、次代を担う若者の目には保持団体がどう写るのか探ってみることにしました。そのため、本町の保持団体である今右衛門窯と柿右衛門窯の全面協力のもと、学生たちが実際に現場の職人たちに混じり奮闘する、ドキュメンタリー風の映像を制作しました。この奮闘記は、大会でのお披露目に向け、現在最終調整中ですので、どうぞご期待ください。

また、映像としては、ほかにも14代今泉今右衛門氏と15代酒井田柿右衛門氏に、学生からの「100の質問」と題して、生活全般に渡る率直な疑問を投げかけた、ユニークな企画も準備しました。さらに、フィールドワークの一環として、有田焼について、有田町や近隣市町で取材した映像も作成しています。これらの動画も現在最終調整中ですが、こちらは完成次第YouTubeにて一般公開の予定です。

学生らが制作した映像を収めたデータ

フィールドワークの様子

○今後の予定

現在、大会に向け粛々と準備を進めているところですが、それらを具現化するため、早急に実行委員会を立ち上げ、内容のブラッシュアップを図っていきます。また、ポスターやチラシ、SNS等を駆使し、広報活動にも力を入れていく予定です。

伝建かわら版

保存修理事業報告

有田内山伝統的建造物群保存地区は、平成3年度に国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されました。以後、国や県の補助も受け、町並みの景観を維持するために、延べ129件の指定物件の修理助成を行ってきました。（助成率は80%、限度額600万円）4年度には、以下の4件の修理を実施しました。

令和4年度保存修理事業

◎上幸平・吉村幸家（屋根葺替え、外壁修理）

セメント瓦の傷みがひどく、雨漏りを繰り返す状態でした。外壁全体もひびわれて、洗い出しの水切りや庇も崩落、外壁下地の板も腐食していました。洗い出し装飾やタイルなど、手間のかかる作業でしたが可能な限り元の部材を残して復元工事を実施しました。

◎上幸平・松本郁子家
（屋根葺替え、外壁改修、建具修理）

セメント瓦の風化が進行し、早期の葺替えが急務でした。また、西面外壁の漆喰もひび割れて浮かび上がり、今にも崩落しそうな状況でした。さらに両側面外壁の木材も風化が目立ち、塗装も色あせ、各種の木製建具もぐらついており、大々的な調整が必要となっていました。

◎岩谷川内　中島清太家
（建具修理、外壁修理）

◎大樽　嬉野温子家（軒裏修理）

吉村家　（修理前）　（修理後）

松本家　（修理前）　（修理後）

中島家　（修理前）　（修理後）

修景事業

未指定の建築物であっても、周囲の景観に合わせて修理することで、保存地区全体の歴史的景観をより良質なものとすることに大きく寄与します。そのため、基準に沿った修理に対しても、助成を行っています。（助成率３分の２　限度額 300 万円）これを修景と呼び、これまでに４件の助成を行っています。令和５年度も、１件の助成を計画しており、表通りの新築では許可基準に抵触するバルコニーの撤去など、周囲の景観の向上が期待できます。

◎赤絵町　鷹巣家（平成22年度　修景）

修景前

修景後

◎泉山　諸隈家（令和５年度　修景）

現況

計画

令和６年度の修理事業・修景事業を希望される方は、５年６月末までに計画書の提出が必要です。
助成の内容や手順などについてはお問い合わせください。（問い合わせ先：有田町文化財課：43-2899）

完成！資料館の新しいパンフレット

このほど、有田町歴史民俗資料館東館・有田焼参考館（以下、資料館）のパンフレットを一新しました。これまで、資料館のパンフレットは、子どもを対象にした「有田焼ってどんなもの？」と、展示内容を網羅した「皿山探訪」の２種を用意し、来館者や有田焼について知りたい方などに無料で配布していました。しかしながら、両方とも発行から数十年が経過し、内容が現代にそぐわなくなったことや、近年資料館の展示替えを行ったため、パンフレットと展示内容の一部が一致しなくなってきました。さらに展示内容を全て網羅した、有料の『有田町歴史民俗資料館東館・有田焼参考館展示ガイドブック』を発行したことで、「皿山探訪」の意義が薄れてしまったことから、パンフレットの内容を統合して１つにまとめ、内容もデザインも名称もすべて一新したパンフレットを作ることにしました。

新しいパンフレットは、「やきものの種類」「展示概要」「有田焼ができるまで」「有田焼の歴史」という、皆さんが知りたいことを、わかりやすくまとめたものになります。資料館にて無料で配布していますので、ぜひ手にとって頂き、館の見学はもちろん、有田焼について手軽に知ることができる入門テキストとして、ご利用頂ければと思います。

資料館の展示や有田焼の歴史について、詳しく知りたい方は、ぜひ『有田町歴史民俗資料館東館・有田焼参考館展示ガイドブック』（日本語版）をお求めください。
価格：300円

※現在、『有田町歴史民俗資料館東館・有田焼参考館展示ガイドブック』英語版を無料で配布しています。数に限りがありますので、右記に連絡の上、ご来館ください。

「木造地蔵菩薩立像」の説明板を設置しました

木造地蔵菩薩立像

町内の上幸平地区と大樽地区の境に、三空庵墓地があります。そこの広場には、文政11年（1828）の内山の大火から難を逃れたことを墨書で記す、「木造地蔵菩薩立像」を安置したお堂が建っています。現在は、美術工芸品としてではなく、大火の記憶を今日に伝える重要な歴史資料として、町の文化財に指定されています。

これまで地区の方々によって、長年に渡り大切に管理されてきましたが、その由来などを周知し、後世まで語り継ぐための説明板等は設置されていませんでした。そのため、今回新たに設置することになりました。近くにお立ち寄りの際は、一度訪れてみてはいかがでしょうか。

所在地：佐賀県西松浦郡有田町上幸平一丁目1339番

三空庵墓地・広場　お堂

季　刊　『皿　山』

通巻 138 号（令和５年６月１日）

編集・発行　有田町歴史民俗資料館

〒 844-0001 佐賀県西松浦郡有田町泉山一丁目 4-1
☎ 0955-43-2678　FAX0955-43-4185
URL：http://www.town.arita.lg.jp/main/169.html